

早川南小学校の教育

「山村留学制度とともに・・・」

早川町立早川南小学校
校長 中山 栄二

■はじめに

早川町では、子どもたちの「生きる力」を育む遊学制度として「山村留学制度」を導入し、全国に呼びかけています。早川南小学校では、一人一人の個性に応じたきめ細かい教育活動を行っており、少人数だからこそできる教育を日々進めています。また、恵まれた自然環境の中で、地域の文化や歴史について学んだり、教育行政や NPO 法人与連携しながら貴重な体験活動をたくさん行ったりしています。

留学期間は、1 年以上となっており、親子留学の形態をとっています。また、教育費無償化制度が導入され、教材費・修学旅行経費・給食費など、実質的にすべて無償となっています。さらに、児童生徒一人あたり月額 10,000 円の助成金が町から支給されます（平成 26 年度までで終了）。住宅や保護者の就労支援も、町当局において手厚く相談にのっていただけます。

このように、早川町における「山村留学制度」は、他に類を見ない手厚い助成制度となっており、次代を担う子どもたちの健やかな成長を願う熱い気持ちがこもっている制度と言えます。ぜひ、子どもたちの健やかな成長のため、この山村留学制度を利用してはいかがでしょうか。

■早川南小学校の教育

早川南小学校は、国道 52 号線から早川沿いの県道南アルプス公園線を車で進み、約 15 分のところにある学校です。学校の東側を春木川が流れ、有名な七面山の登山口にあります。春から秋にかけて、全国から多くの信者の方々が七面山へ登っていきます。

また、早川南小学校は、吹奏楽活動で有名な学校でもあります。昭和 46 年からなんと 43 年以上にわたって吹奏楽に取り組んできています。3 年生以上の子どもたちが楽器を手にし、吹奏楽活動を通して、責任感や連帯感、協調性などを身につけています。初めて楽器を手にしても、子どもたちの上達は驚くほど高いです。学校職員も、みんな楽器を担当しています。

全校児童数は、平成 26 年 4 月現在で 20 名となっています。個に応じたきめ細かい教育を保障し、一人一人の学習状況あわせた教育が進められています。子どもたちはみんな素直で元気で、向上心いっぱいです。

学校教育目標は、「まごころ教育」を目指しており、次のような 4 つの目標を設定しています。

「かしこく」……自ら学び、自ら課題を解決する創造力ある子どもの育成(知)

「つよく」……生涯を通じて安全で健康な生活を送る子どもの育成(体)

「なかよく」……自他を敬愛し豊かでしなやかな心を持った子どもの育成(徳)

「たくましく」…社会の変化にたくましく対応する子どもの育成(実)※1

※1・・・(実)は、自己実現の「実」を表す。

また、早川南小学校の校訓は、「和協進取（わきょうしんしゅ）」です。「和協進取」とは、「和らぎ親しんで心を合わせ、自ら進んでことを成すこと」で、開校以来ずっと教育活動の基本理念になっています。

■早川南小学校の施設の紹介

本校の現在の校舎は、平成8年4月に建築着工となり、翌年の平成9年3月に校舎及び屋内運動場が竣工となりました。敷地面積は、6441.71 m²、校舎の延床面積は1669.41 m²、屋内運動場が639.24 m²となっています。2009年には、東京工業大学の建築関係の方々が学校内外の施設設備が優れているということで、視察に来るほどの素晴らしい校舎となっています。躯体は、直線と曲線を巧みに組み合わせ、全体的に美しい造りとなっています。また、子どもたちの教育活動における動線がスムーズで、小規模校の学校建築として、各所に優れた構造となっています。



◇玄関ホール

広いスペースが確保され、畳が敷いてあります。飾り台には、季節の鉢植え、寄贈していただいた御輿が飾ってあります。この御輿は、生活科の勉強で、秋に1・2年生が実際に担ぎます。



◇1階廊下

玄関ホールを右に進むと、1階の廊下となっています。奥は1・2年生の教室になっています。2階に続く広い階段があります。階段の上にはとロビー天井には、大きな窓があり明かり取りになっています。



◇1階のミニ図書館

ここは、1階にあるミニ図書館です。子どもたちが気軽に畳の上で本を読むことができます。生活科で使う教材もあり、ちょっとした時間があれば、子どもたちはゆったりと過ごすことができます。奥は、もう一つの階段です。



◇屋内運動場(体育館)

ここは、体育館です。普通の校舎だと別棟で体育館がつくられていることが多いのですが、本校では、校舎の続きに建てられています。採光や換気に優れており、明るく使いやすく造られています。また、玄関が独立してあるため、夜間は社会体育などでも利用されています。



◇借景

体育館のステージ奥の扉を開けると、春木川の景色を見ることができます。これは、「借景」といって、早川の景色を切り取ってながめることができる、とてもユニークな遊び心たっぷりの工夫がされています。



◇普通教室

これは、5年生の授業風景です。全校児童数が20名で、一つの教室の児童はこんな感じで授業をしています。一人一人が大切にされながら授業が進められています。これは、少人数教育の大きなメリットだと考えています。



◇小さな美術館

校舎のあちこちに、このような絵画が掛けられています。この絵は、階段を上ったところ掛けられている、ピカソの「少年」の絵です。他にも、峡南地区にゆかりのある画家の絵もたくさん飾られています。



◇泉ホール

ここは、本校でも一番に自慢できる「泉ホール」です。世界的な指揮者の小泉和裕さんが設計を手がけて造られました。それで「泉ホール」という名前が付けられています。普通の学校の音楽室とは全く違った造りとなっていて、音響的にもとても優れています。本校の吹奏楽活動の拠点でもあり、ここで練習をしています。



また、入口が別にあり、社会教育関係の音楽団体もここで夜間練習をしています。小規模校ではありますが、このような施設設備となっているのも、早川町の文化の高さを象徴しています。



◇明るい図書室

2階の西側はたっぷりの明るさを確保した図書室となっています。曲線の窓ごしには、早川の自然の豊かさを望むことができます。

本校の蔵書は、約 5,000 冊で、とても多くの図書が揃っている学校です。



◇校舎全景

コンパクトな造りであり、機能的な造りであり、早川の自然にぴったりのデザインとなっています。ちなみに、本校はノーチャイム日課で、外で遊んでいる子どもたちは、正面中央の時計を見て行動しています。



◇正面玄関

最後に、これが本校の正面玄関です。広い間口になっています。どうぞお気軽にお越しください。

■早川南小学校の吹奏楽活動

本校の吹奏楽活動は、昭和46年から始まります。本年度で44年目をむかえました。楽器を演奏するのは、3年生以上となっており、1・2年生は踊りのパフォーマンスを担当します。また、全教職員も何らかの楽器を担当し、演奏に加わっています。職員全員が子どもたちと一緒に吹奏楽活動をしているのも非常にめずらしく、まさに子どもたちと一体となって、よりよい音楽を追求している姿は自慢できる学校の特色の一つだと思います。

こんなに古くから吹奏楽活動をしていた小学校は山梨県では他になく、本校の伝統的な教育活動となっています。今年度は、5月3日の早川町山菜祭りへの参加、11月3日の小学校バンドフェスティバルへの参加、2月14日のありがとうコンサートが主な発表の場となっています。機会がありましたら本校の演奏の様子をぜひご覧ください。



◇山菜祭り

この日は天気もよく、大勢の方々の前で演奏ができました。1・2年生のパフォーマンスも立派にできました。山菜祭りは、県内外からたくさんの方がおいでいただき、町が用意した駐車場もいっぱいになりました。



◇富士山河口湖音楽祭オープニングセレモニー

平成25年度は、8月10日に「富士山河口湖音楽祭」のオープニングセレモニーにも参加しました。山梨県で開催された、国民文化祭の一環として開催されました。



◇小学校バンドフェスティバル

毎年恒例の「山梨県小学校バンドフェスティバル」に参加しました。山梨県内の吹奏楽部や金管バンドのメンバーと交流することができました。この日は、「世界に一つだけの花」他2曲を演奏しました。



◇ありがとうコンサート

2月28日に行われた「ありがとうコンサート」です。6年生を送る会の意味合いも込められているコンサートで、涙、涙の感動的なコンサートとなりました。子どもたちも精一杯取り組んだので、達成感、満足感でいっぱいでした。